



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第33号

2017年(平成29年)12月22日発行

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06(6607)8373

FAX 06(6605)2769

発行人 黒山 泰弘

《 目 次 》

黒山会長・長崎名誉会長代理の挨拶……………	2	2017年工学部入学生名簿……………	16
市大TOPIC……………	3	〳 工学研究科入学生名簿……………	17
学科の近況・会員短信(機械工学科)……………	4	〳 工学部卒業生〔就職・進学先〕……………	18
〳 (電子・物理工学科)……………	6	〳 工学研究科修了生〔就職・進学先〕……………	18
〳 (電気情報工学科)……………	9	学生工場見学会……………	19
〳 (化学バイオ工学科)……………	10	工学部新任・若手教授による講演会……………	20
〳 (建築学科)……………	12	工学部同窓会事務局便り……………	21
〳 (都市学科)……………	13	同窓会ホームページへのアクセス・編集後記……………	23
工学研究科・工学部研究分野……………	15	平成30年“工学部同窓会の集い”の案内……………	24

ごあいさつ

大阪市立大学工学部同窓会長 黒山 泰弘



日頃より本会の運営にご支援・ご協力をいただいていることに感謝いたします。会報発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

さて、母校は府知事・市長の主導のもと、府立大学との統合が進められています。この件に関して、平成29年10月開催の全学同窓会役員会に大学法人の京極副理事長ら幹事が出席され現状説明がありました。それによると、平成29年9月開催の府議会・市議会に平成31年4月に両大学が「公立大学法人大阪」へ法人統合する議案が上程されたが、議会では様々な意見が出て審議が前に進まない状況にあるということです。この件に関しては、今後も様々な媒体を活用して情報提供してまいります。

本会の目的は、在学生を含む同窓生の親睦とともに、大阪市立大学工学部を支援し、その発展に寄与することです。具体的な活動としては、毎年2月の評議会後に懇親会や講演会を、また、11月に開催されるホームカミングデーにおいて「新任・若手教授による講演会」を開催しています。本年度は嘉名教授から「新たな都市計画の潮流」と題してご講演いただきました。一方、学生をはじめとする工学部への支援活動として、学部、博士課程の学生への奨学金制度を運営しております。また、在校生と卒業生との交流の場として、卒業生が働く職場を訪問する工場見学会を毎年

実施し、学生から好評を得ています。会員諸氏から「わが社・わが団体へ」との情報提供をいただければ幸いです。

会の運営は、各学科から数名選出いただいた理事で協議・立案し、各学科・年次から選出された評議員の議決をもって執行するシステムとなっております。しかしながら、ボランティア活動のため現役世代の参加が難しく、執行機関である理事会の構成に世代の偏りを生じるとともに新陳代謝が不足する事態が生じております。また、現役世代の各種行事や会合への出席率が芳しくありません。難しい課題ですが役員会を中心に検討を進め、現役世代が参加しやすい・興味を持ってもらえる運営方策を探ってまいります。

今後もイベント、会報・ホームページなどのツールを活用して大学の状況や会員の生の声を適宜、適切に情報発信してまいります。また、皆さま方からの情報提供に期待いたします。

最後に10月に工学研究科長・工学部長を務めておられた佐藤嘉洋先生がご逝去されたことをご報告します。先生は府立大学の統合問題など難しい課題に取り組まれていたとお聞きしています。また、本会との交流においても大変お世話になっておりました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(土木工学科 昭和50年卒)

名誉会長代理 長崎 健



今秋は季節外れのしかも二週連続の台風が来襲するなど、何が正常で何が異常気象なのか悩ましい状況です。気候に限らず常識に囚われない臨機応変な対応が益々求められる昨今ですが、同窓生各位には、多方面にて日々ご活躍のことと思います。

さて誠に悲しいお知らせですが、佐藤嘉洋研究科長が葉効甲斐なく、平成29年10月23日に生まれ故郷秋田県横手市十文字町にてご逝去されました。心から哀悼の意を表すとともに謹んでお知らせ致します。現在は小職が研究科長職務代理者を務め、重松孝昌副研究科長代行、高橋秀也教育研究評議員と力合わせ非常事態さながらの研究科・学部の運営に当たっています。

まずは、恒例に従い教員異動のお知らせです。本年3月に、田辺利住教授（生体材料工学）・鳥生隆教授（情報処理工学）・日野泰雄教授（都市基盤計画）・向井孝彰教授（光電子工学）の重鎮である先生方が定年退職され、佐久間康富講師（環境都市計画）が和歌山大学へ転出されました。

一方、4月には林和則教授（情報処理工学）、蔡凱准教授（制御工学）、北川大地助教（材料化学）、が着任され、嘉名光市教授（環境都市計画）が昇任されました。10月には立花太郎教授（創薬生命工学）が昇任され、蕭閑偉講師（環境都市計画）、森山仁志特任助教が着任されました。

次に、学生の皆さんの動向ですが、平成28年度に学部278人、修士185人、博士4人が巣立つ一方、平成29年度は学部297人、修士208人、博士16人の新入生を迎え入れました。

工学研究科では特色ある教育として、平成25年度より優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くための博士課程教育リーディングプログラム『システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム』を実施しています。今年度の履修生は過去最大の9名になり、今年度末にはいよいよ初のプログラム修了生を世に送り出す予定です。彼らは主専攻の勉学・研究遂行にプラスして、グローバルな視野を持って産業界

での牽引型人材となるための貴重な鍛錬を日々積んでいます。昨年の中間評価では「学生の積極性・自主性が醸成され、一般学生よりも思考力の優れた学生が育成されている」と総合評価『A』の高い評価を得ました。しかしながら、文部科学省からの補助金が当初予算の半分以下で財政的に厳しい状態が続くなか、今年度から工学部同窓会より「グローバルリーダー演習」の一部費用を支援して頂けることが決定しました。この場を借りて工学部同窓会ならびに同窓生の皆さまに深謝申し上げます。工学部入口での『同窓会による工学部生奨学金制度』、そして、出口である後期博士課程に対する『リーディングプログラム支援』と工学部同窓会の支援なくしては工学部・工学研究科の教育は立ち行かない状況です。

今夏、文部科学省より『大学における工学系教育の在り方（中間まとめ）』が公表されました。その中間まとめに基づき社会ニーズの変化に対応し、専門性を確立した上で異分野展開できる人材育成により、産業界における先端実務人材の量的拡大・質的充実を目指す「大学における革新的工学系教育改革促進事業」の募集が予定されています。佐藤先生が主導してこられた工学研究科の変革を一層加速し、より社会のニーズに適応した変革とすべく、教員一丸で「大学における革新的工学系教育改革促進事業」に取り組んでいく所存です。皆さまには今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を頂戴頂きますこと重ねてお願い申し上げます。末筆になりましたが、同窓生各位の益々のご活躍をお祈り致します。（副工学研究科長・副工学部長）

市大TOPIC

理事兼副学長 櫻木 弘之



工学部同窓会の皆様には、日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動へのご理解とご支援を賜りまして誠に有難うございます。現在、理事兼副学長として主に研究・国際交流の担当をしております立場より、本学の昨今の現状と取り組みについて、特に工学部・工学研究科に関連することを中心にご報告させて頂きたと存じます。

本学は1880年の大阪商業講習所創設より数えて本年で創立137年を迎え、この間、大阪市民の皆様方に支えられ、また諸先輩方のたゆまぬご尽力により、現在、工学部・工学研究科を含め8学部10研究科を擁する文字通りの総合大学として、高度な研究とそれに裏打ちされた高度人材育成に取り組んでおります。この伝統と高度な学術水準を今後も維持・発展させるためには、設置者である大阪市からの運営交付金や授業料・病院収入等に加え、科学研究費補助金（科研費）をはじめとする、いわゆる外部資金の獲得が大学の重要な課題となっております。工学部・工学研究科においても、科研費や国・独立行政法人等からの受託研究に加え、様々な研究分野で民間企業等との共同研究・受託研究に積極的に取り組み、多くの外部資金獲得に貢献していただいております。また、同窓生の皆様方からのご寄付も、教育研究の国際化や高度人材育成を進めて行く上での貴重な財源となっております。

そのような中、近年の急速な科学技術と情報化の進展に加え、超高齢化が進む現代社会が抱える様々な諸課題の解決の為に、研究分野の壁を超えた異分野融合による「オープン・サイエンス」と、それによる新たな価値の創造が求められております。本学は様々な専門分野がコンパクトに集積した総合大学として「互いに顔が見える距離」で異分野融合を進め得る理想的な研究プラットフォームだとも言えます。工学研究科ではこれまでも医学研究科との「医工連携」による医用工学分野等での先進的研究が進められて参りましたが、昨年は理学分野や生活科学分野も加えた「杉本・阿倍野ライフサイエンス談話会」を定期開催し、異分野の研究交流・共同研究へと発展しつつあります。また、「都市防災研究センター」においては、文字通り文系理

系全分野の英知を結集し、ハードからソフトまでの広範な都市防災研究を推進しております。大学としても、限られた予算ではありますが、総合大学としての強みを活かすこれら異分野融合研究に研究費を重点配分しており、これらが国・自治体や民間との共同研究・受託研究へと発展することで外部資金導入へも繋がる好循環を目指しております。

今年度の新しい取り組みとして、教員や学生が自由な発想で出会い、議論し、新しいアイデアが芽生える場として、オープンカフェ・ラボ・バー『ツクルマ』という交流スペースを学術情報総合センターのエントランスホールに設けました。この『ツクルマ』は、工学研究科・嘉名研究室の制作チームの学生達が全ての設計・制作を行ったものです。更に、この『ツクルマ』というオープンスペースを活用して、誰でも自由に参加できる「アカデミック・オープンカフェ」という異分野交流イベントを月に1～2回のペースで開催しております。

今後も、このような地道な取組みを重ねる中に、教育研究の国際化にも取り組み、国際感覚を身に着けたグローバル社会で活躍できる人材の育成にも尽力して参りたいと存じます。今後とも工学部同窓会の皆様方のご理解・ご鞭撻、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本稿執筆中の去る10月23日、工学研究科教授で、昨年度より工学研究科長・工学部長を務めておられます佐藤嘉洋先生がご逝去なさいました。先生は、近年の大阪府立大学との統合問題や工学系教育改革等の山積する重要課題について、工学研究科長・工学部長として先頭に立ってその重責を担っておられただけに、先生のご逝去は大学にとりましても痛恨の極みでございます。この間、私自身も佐藤先生には様々な場面で膝附合わせてご相談させていただくなど、大変お世話になって参りました。茲に、佐藤嘉洋先生の長年にわたる教育・研究上のご功績を称えますとともに、本学の運営にも多大なるご尽力を賜りましたことに心より感謝申し上げたいと存じます。先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

近況報告

機械工学科（旧機械・旧知材）

機械工学科の近況



工学研究科教授・機械工学科主任教授
伊與田 浩志

卒業生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本学科・専攻に多面的にご支援をいただき、感謝申し上げます。

まず、平成28年度卒業生の進路状況についてご報告いたします。平成29年3月に54名が機械工学科を卒業し、うち10名が就職、43名が大学院（内2名は他大学）に進学しました。大学院では42名が前期博士課程（修士課程）を修了し、41名が自動車、重工、家電など、幅広い分野の企業に就職いたしました。残り1名は、大阪府立大学と共同で4年前に開始した文部科学省の博士課程教育リーディングプログラム（LP）である「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」の履修生で、4月より後期博士課程に進学して勉学と研究に励んでおります。

また、同4月、新たに機械工学科56名、機械物理系専攻前期博士課程42名、後期博士課程は上述のLP

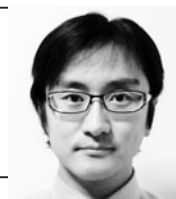
履修生1名のほか社会人1名の入学生を迎え、新年度をスタートおります。

学科教員の移動については悲しいお知らせがございます。本稿執筆中の10月23日に生産加工工学分野教授の佐藤嘉洋先生がご逝去されました。平成11年4月に本学に着任されてから、生産加工学や溶接加工プロセス工学などの講義を担当いただくなど当該分野の教育と研究にご尽力いただきました。更に平成27年4月からは工学研究科長として、工学部・工学研究科の運営にも大変にご尽力いただいております。廊下でお会いするときやお酒の席など、温かなお人柄と笑顔を思い返しますと悲しみに堪えません。心よりご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが、卒業生の皆様のこれからの活躍を祈念すると共に、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

機械・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・(株)本田技術研究所

中西 志允



卒業生の皆様におかれましては、各方面でご活躍の事と存じます。私は学部と院の3年間、動力システム工学研究

室に籍を置き、2009年の4月に本田技研工業(株)に入社後、同年10月より現在の(株)本田技術研究所にて自動車のボ

ディー設計に携わっております。自動車の設計は、各国法規、新規デザイン、各国の衝突安全性に関する第三者機関評価、地域ごとの商品性、燃費や排気の環境基準などの要求性能について可能な限り軽量かつ低コストに纏め上げる仕事になります。

当然ながら車としての機能を成立させるための各部品の最適配置も極めて重要で、日々摺り合わせを行いながら業務を推進しています。

私がよく担当する業務として、給油口の蓋の設計が挙げられます。小さな部品ではありますが、ボディー設計部署の業務としては珍しい機構物ということで、敬遠されがちな面のある部品でもあります。この業務を取り巻く状況と、

大学での学びの繋がりを考えると2つの事が挙げられます。

1つ目は試作の回数が減っている中で確実な動作を求められること。これは、学部時代に学んだ力学や、微分方程式の数値解法の知識に助けられる事がよくあります。2つ目は燃料システムの複雑化や電動車両への対応で、電気に関する知識や理解が求められる事があります。これは、入学当初のオリエンテーション時だったとは記憶しているのですが、一つの事を深く知る“Ⅰ型”よりも広い知識と深い知識の“Ⅱ型”、さらに広い知識に複数の深い知識の“Ⅲ型”を目指してほしいと南齋教授が説かれた事を思い出します。

最後になりましたが、在学中にお世話になった先生方、卒業生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

機械・平成24年卒・同26年前期博士課程修了・関西電力(株)

岩波 伸悟



この度、同窓会報寄稿の機会を頂き、当時を思い出し、懐かしい気分に浸っております。私は2014年に機械物理系専攻を修了し、電力インフラの設備を通して各国の経済発展に貢献したいと考え関西電力株式会社に入社しました。

入社後は舞鶴石炭火力発電所に配属され、発電所の運転業務に従事し、その後、ボイラ設備の保守業務を経験しました。3年間における現場での経験を発電所の建設に活かしたいという希望が通り、今年6月の異動で新規部署に配属となり、新設発電所の設計図の審査やプラント運用の技術支援を行っています。

担当案件は東南アジアの石炭火力発電所で現在建設が始まったばかりです。

現地とのやり取りは英語で行わなければならない、学生時代にしっかりと勉強しておけば良かったと日々感じながら苦闘しています。一方、私が技術検討したものが発電所の

設計に反映されることに、とてもやりがいを感じており、プラントが完成するまで引き続き技術支援を行いたいです。

学生時代は熱工学研究室で過熱水蒸気を用いたオープン伝熱解析に関する研究を行っていました。対流やふく射、伝導伝熱等の伝熱形態に関する知識や流体力学の基礎知識は実業務において役立っています。その他には、メーカーや他大学等様々な外部機関と関わりながら研究を行ったことから、人とつながることの大切さを学ばせて頂きました。現在の業務は自分ひとりで出来るものではなく、メーカーや現場とのコミュニケーションによって成り立っており、学生時代に良い経験をさせて頂いたと感謝しております。

最後になりますが、在学中は先生方や在学生の皆様に変お世話になりました。皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

電子・物理工学科 (旧電気一部・旧応物)

電子・物理工学科の近況



工学研究科教授・電子・物理工学科主任教授

中山 正昭

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

応用物理学科と電気工学科の学科再編により電子・物理工学科が平成21年4月に発足して以来、学科は順調に発展しています。平成29年3月に49名が電子・物理工学科を卒業し、その内34名が本学大学院に進学、2名が他大学大学院に進学、8名が就職しました。大学院では、35名が前期博士課程を修了し、33名が就職、2名が後期博士課程に進学しました。また、1名が後期博士課程を修了して就職しました。そして、4月には、43名の新入生を迎えました。

この誌面を借りまして、電子・物理工学科が積極的に関与しています「博士課程教育リーディングプログラム」について、ご紹介したいと思います。これは、文部科学省のプロジェクトで、5年一貫博士学位プログラムあり、平成25年度に本学と大阪府立

大学が共同申請をして、厳しい審査を経て採択されました。本学では、工学研究科のみが参画しています。我々のプログラム名称は、「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」です。「ことづくり」の発想から深い物質科学の素養を活かすことができ、グローバルな持続型社会を支える産業界の牽引を目指して、階層融合的な研究戦略を想起できる博士人材を育成することを目的としています。とても挑戦的なものですが、電子・物理工学科の5名の卒業生がプログラム履修生として頑張っています。次年度から、工学部同窓会より学生経費へのご支援をいただくことになっており、ここにお礼申し上げます。

最後に、卒業生の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念しますと共に、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

「市大応物37会」

応物・昭和37年卒

山根 正熙



1962年志を胸に社会に出て早や55年、残念ながら22名中4名の級友が亡くなってしまった。

戦後の復興から高度成長期で学术界や産業界のどの分野にも先達はいない。自ら先端を切り開かねばならない時代であり、昼夜寝食を忘れて働き続けて来た。

各々の分野で成果をあげ役割を終えた頃の約20年前に「市大応物37会」を始めました。夫を長く支えてくれた妻達への感謝の気持を込めて2000年6月に初めて夫婦同伴で修善寺・伊豆へ一泊二日の「市大応物37会」の旅行をした。

最愛の夫をなくされた奥様方も毎年参加され、一緒に楽しい一時をすごしています。北は北海道から南は沖縄まで日本全国を旅して来しました。

60歳代の時は自家用車に分乗し、70歳代になれば、公共交通を利用し、年相応に体に支障があっても気兼ねなく気

楽に旅行が出来る様に現地でマイクロバスをチャーターして観光をしてきた。

今年は6月5日、北陸新幹線「上越妙高」駅に集合して佐渡島へ渡り、男性8名、女性8名で二泊三日の佐渡島旅行をした。佐渡島の応物37会の写真を添えます。



佐渡金山、日本海の荒波で出来た絶壁の海岸や島が浮かぶ尖閣湾揚島遊園、トキの森公園、等を巡り、佐渡名物のたらい舟にも乗った。夜の宴会食そして幹事の部屋に集まっての二次会、話に花が咲き、脱線に脱線。これが「応物37会の旅」の魅力かもしれない。

世阿弥が流されて広がった佐渡の村人が唄い、奏で、舞う薪「能」。能舞台に至る所で見かけた。文化の深さを味わった旅であった。来年の岡山方面への旅を楽しみに握手に握手をして別れた。

応物・平成9年卒・同11年前期博士課程修了・同17年後期博士修了・
神戸大学教員

小島 磨



日増しに寒さが加わってまいりましたが、皆様、お元気でしょうか。2005年に博士課程を修了し、独立行政法人情報通信研究機構を経て、2006年から神戸大学で働き始め、早いもので10年が過ぎました。また、この2年間は学術調査官として文部科学省の職員を兼任しておりましたが、先の7月をもって2年の任期を無事に終えたところです。大学では半導体の光物性を中心とした研究を行っており、学生の頃から大きく変わったわけではありませんが、日々進歩する科学技術に圧倒されないように、毎日奮闘しております。

さて、私事ではございますが、昨年の年末から年始にかけて、念願のアフリカ旅行に行きました。雄大なビクトリアの滝（ジンバブエ）から始まり、チョベ国立公園（ボツワナ）を訪れ、ナミブ砂漠（ナミビア）では満天の星空

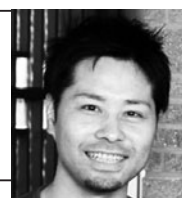
を、ケープタウンでは喜望峰を見、そしてクルーガー国立公園（南アフリカ）では野生動物の間をドライブして、約2週間があっという間に過ぎました。特に、ナミビアとクルーガー国立公園でのドライブは忘れがたい体験でした。

ところで、2012年に英国のシェフィールド大学に約11か月滞在して研究する機会を頂いたのですが、その時の縁と幸運とが重なり、短い期間ではありますが、今度は同じく英国のグラスゴー大学に滞在する機会が得られました。滞りなくビザが取得できれば、この原稿が読まれる頃には、現地に到着しているころだと思います。研究を大きく展開できるように、しっかりと勉強してきたいと思っています。

何かと忙しい師走ですが、健やかにお過ごしください。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

応物平成18年卒・同20年前期博士課程修了・トヨタ自動車(株)

小村 慎吾



同窓生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと存じます。現在2人の娘にも恵まれ、トヨタ自動車(株)にてリチウムイオン二次電池開発の一員として、忙しくも充実した日々を過ごしています。

速いもので卒業して9年半が過ぎました。弊社が初代Priusの量産を開始してから20年、街中で電動車（HV、PHV、EV）を目にすることがそう珍しくなくなりました。ひとえに電動車に関わる諸先輩方のご尽力のお陰と感じ、自身も見習って貢献できる技術者に成長したいと思う日々です。

車という工業製品は、世界中様々な環境において何十年も安全・安心・快適・魅力を提供し続ける使命を帯びていると思っています。だからこそ開発においては妥協を排除し、チームワークでやり遂げねばならない難しさと面白さ

を実感しています。同時に、この仕事に没頭させてもらっていることを、家族や周囲に日々感謝しています。



業界全体として大きな潮目を迎えている昨今、従来の経験の延長における判断では通用しないことに遭遇する度、

一人の技術者として考えを整理し、小さな判断を積み重ねてゆくことの必要性和重要性を感じています。学生時代に「技術者倫理」という授業を受講していたことを思い出します。恥ずかしながら断片的な記憶しか残っていませんが、今になってみるとその授業の重要性を実感できるようになりました。

2014年より年1回、電子・物理工学実務技術論の授業を通じて若い学生の皆さんにお話しさせていただく機会を設けて頂いています。20歳前後だった当時の自分に伝えたい事を中心に、今年も学生の皆さんにお伝えできることを楽しみにしています。

最後に、皆様の変わらぬご活躍を祈念いたしております。

電気・昭和62年卒・平成1年前期博士課程修了・日本電気(株)

森谷 耕太郎



私は平成元年に電気工学科前期博士課程を修了し、東芝の宇宙開発部門において、国際宇宙ステーションのロボットアームシステムの開発や、当時、世界最高レベルの性能を有した人工衛星搭載コンピュータの設計を担当しました。

その後、衛星三社（東芝、NEC、三菱電機）のうち、東芝がNECに統合されたため、NECへ移籍して、月周回衛星かぐや、金星探査機あかつき、小惑星探査機はやぶさ2等において人工衛星の頭脳に相当する装置群やサブシステムの開発を行い、現在も人工衛星からロケットまで様々なプロジェクトに参画し、日本の宇宙開発に貢献させて頂いています。

さて宇宙開発というと教科書にも掲載されている「かぐや」と「はやぶさ2」について質問されることが多いので、これらの人工衛星の紹介をしておきます。

まず「かぐや」については、月の貴重な科学データを観

測した後、2009年にその使命を終え、意図的に月面に落下させています。もし、満月の夜空を見上げる時には、是非、月の砂漠にひっそりと身を横たえた「かぐや」の姿を想像してみてください。

一方、「はやぶさ2」は、現在、有機物や水を含んでいる可能性がある小惑星リュウグウに向けて順調に飛行しており、2018年に小惑星に到着する予定です。「リュウグウ」の映像が来年の夏までには、ニュースで放映されると思いますが、どのような姿を見せてくれるのか楽しみです。

また、「はやぶさ2」では、爆薬で人工クレータを生成し、ここへ高精度誘導制御によってタッチダウンを行い、世界初の小惑星の地下サンプルリターンを目指していますので是非、応援して下さい。

末筆ながら今後の皆様のご活躍を心より祈念いたします。

電気・平成5年卒・同7年前期博士課程修了・川崎重工業(株)

岩永 慎一郎



在学中は電気機器学研究室にて鉄道車両のVVVFインバータ装置による誘導電動機の駆動制御について研究していました。電車が出発する時と同じような音（パルスモード切替に伴う磁歪音の周波数変化）が回転する誘導電動機から聞こえた時には大変感動したことを覚えています。

平成7年に川崎重工業に入社し、鉄道車両のシステム設計を担う部門に配属され、国内の鉄道事業者向けをメインとしたシステムの取り纏めを担当しました。業務内容は、車両に搭載される多くの装置について、機能仕様やインタフェースを定め、それらを有機的に結合し、車両トータルとして正常に動作するシステムを構築することです。受注

前のプロポーザルに始まり、基本設計・詳細設計、そして車両が完成した後は、現地に長期間滞在して走行試験等のタイプテストの指揮を執ります。本線の試運転等で機能・性能の検証が完了し、客先に車両を引き渡せた時の達成感は非常に大きなものがあります。

現在は、関東の鉄道事業者向け地下鉄車両のプロジェクトに従事しており、設計だけでなくQCD（品質・コスト・納期）の責任者として日々奮闘しているところです。上手くいかないことも多々ありますが、これからも、鉄道車両のシステムインテグレーターとして、安全で快適な電車をつくっていきたいと思います。

電気情報工学科 (旧電気一部・旧情報)

電気情報工学科の近況



工学研究科教授・電気情報工学科主任教授

辻本 浩章

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学科再編により電気情報工学科が平成25年に誕生して以来、電気工学から情報工学といった幅広い学問に興味を持った学生が次々と入学しています。平成29年4月には、47名（留学生1名）の新入生が入学しました。学部4年時にはエレクトロニクス領域、情報処理領域、情報通信領域の各領域に、同じ程度の数の学生が第一希望で配属されるようになっていきます。

また教育研究領域制も定着した感があります。

平成29年10月現在、38名の4年生が在籍しており、そのうち26名が本学大学院等の前期博士課程に進学予定です。また、大阪府立大学と共同で3年前に開始した博士課程リーディングプログラムは、電気情報工学科からの合格者がこれまでにいませんでした。

たが、やっと合格者が出、平成28年4月から1名がこのプログラムの履修生になっています。

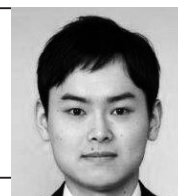
今年度も就職活動解禁時期が昨年度と同様に8月になりましたが、大きな混乱もなく、就職に関しても、これも昨年度に引き続き、電気から情報関連分野のサービス業からメーカといった幅広い業種から多くの求人をいただいております。学部4年生は12名が、大学院前期博士課程の学生は20名全員就職の予定です。

平成29年3月に長年教育研究にご尽力いただきました鳥生教授、向井教授が定年退職されました。平成29年4月からは新たに蔡准教授、林教授が就任されました。

最後になりましたが、卒業生の皆様のこれからのご活躍を祈念すると共に、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

情報・平成27年卒・同29年前期博士課程修了・(株)村田製作所

南 雄介



2017年3月に電子情報系専攻の修士課程を修了し、株式会社村田製作所に入社いたしました。村田製作所では、コンデンサを始めとする電子部品や、携帯電話などに用いられる通信モジュールの設計・開発を行っています。また、近年はエネルギー管理システムやヘルスケア機器など、幅広い領域まで事業を拡大しています。

私は現在、通信モジュールの検査用ソフトウェアを開発する部門に所属しています。業務内容はプログラミングによるソフトウェア開発のみならず、通信モジュールの性能評価方法の検討など、多岐にわたります。通信モジュールを評価検討するとき、ソフトウェアの知識はもちろんのこと、モジュールの動作原理を理解するためにハードウェアの知識も必要となります。業務に必要な知識量の多さに圧倒されながらも、周囲の方々のご助力のおかげで、毎

日一歩ずつではありますが成長することができています。

さて、社会人となり早くも半年が経ちましたが、仕事をする中で新たに気付いたことが一つあります。それは専門性を磨き、何か一つ誰にも負けない領域を持つことが重要だということです。一人で解決できない問題に遭遇したとき、専門性を持った方々の博識に助けられてきました。私自身もそのような専門性を磨くことで、会社の発展の一助になることができると考えている次第です。未だどのような領域について専門性を深めていけば良いのか、手探りの状態ではありますが、新人の特権を活かしてより多くのことにチャレンジしていきたいと思います。

末筆になりましたが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

化学バイオ工学科 (旧応化・旧生応化・旧バイオ)

化学バイオ工学科の近況



工学研究科教授・
化学バイオ工学科主任教授
堀邊 英夫

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学生の進路状況についてですが、2017年3月の化学バイオ工学科卒業生は59人で、本専攻進学40人、他大学院進学3人、就職16人です。化学生物系専攻修士は34人で、就職33人、本学博士課程進学1人です。就職先は化学会社が多く、材料関係の職に就く学生もいます。最近は売り手市場のためか、4年生での就職が16人と例年になく多かったです。

一方、現在の4年生は55名在籍、企業に9名内定、43名が当専攻進学、1名が他大学院進学です。修士2回生は38名在籍、企業に36名内定、1名が博士課程に進学です。

教員に関してですが、2017年3月に生体材料工学分野の教授を長く務められました田辺利住先生が退

任されました。先生は本学を卒業後、企業で長年活躍され、本学に戻られ教鞭をとられました。4月には田部博康特任助教が無機工業化学分野に赴任しました。10月には立花太郎准教授が教授に昇格され、新たに創薬生命工学分野を立上げられました。昨年退任されました前副学長の大嶋寛先生は企業に異動されましたが共同研究の関係で時々来学されます。表彰については、学生の受賞はこの1年で14件、教員は北川大地特任助教が第35回固体・表面光化学討論会で優秀講演賞を、尾島由紘講師がYABEC2017においてPoster Awardを、佐藤絵理子准教授が日本化学会第5回女性化学者奨励賞を、堀邊が平成28年度大阪ニュークリアサイエンス協会賞を受賞しました。

9月には、岡村善文・政府代表による「アフリカ外交で感じたことーピンチとチャンスはいつしよに来るー」を、海外においてテロリストに軟禁された時の話も交え世界の現状についてご講演頂きました。聴講者からは映画の一シーンを見ているようだったと。

最後になりましたが、卒業生の皆様のこれからの活躍を祈念するとともに、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

バイオ・平成22年卒・同24年前期博士修了・キシダ化学(株)

大崎 智弘



現在、私は兵庫県にある試薬メーカーで、ライフサイエンス関連の研究用試薬の開発を行っています。仕事の中心は生物系の実験で、大学時代から慣れ親しんだ手法を用いることも多く、大学で身に付けた知識や技術を十二分に活かしています。時にはまったく知識のない分野に直面することもあります。その場合でも、研究で鍛えられた課題解決能力が役に立っているように思います。

一方で、大学でやってきたことと現在の仕事内容が近いがゆえに、「何か新しいことに挑戦し、視野を広げたい」という思いもあります。もちろん仕事なので、そう簡単に自分がやりたいことができるわけではありません。それでもいろいろなことに興味を持ち、挑戦しようという意欲を持ち続け、挑戦の機会を逃さないようにしていきたいです。

私生活では、趣味のランニングに励んでいます。昨年に

引き続き、今年もハーフマラソンの大会に出場する予定です。また、今春からは「視覚障害者のランナーを支援したい」との思いから、視覚障害者といっしょに走る「伴走」もはじめました。「伴走」の練習会では、お互い切磋琢磨しあえるランナー仲間もでき、今まで以上に走ることが楽しくなりました。今の自分の走力からすると恥ずかしくて人には言えませんが、こころの片隅で「目指せパラリンピック」と思ったりもしています。

同期の何人かとは今でも交流があります。何か困ったことや悩みがあるときに、何でも相談できる友人がいることは本当に心強いです。ぜひまた飲みに行きましょう！

最後になりましたが、皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

応化・平成9年卒・同11年前期博士課程修了・同14年後期博士課程修了・住友化学(株)

田中 健太



学位を取得してから、横浜、つくばと移り住み、2年前の転勤を機に堺市・中百舌鳥に拙宅を構え、妻、息子(小

5)と娘(小3)と年5回程のキャンプを楽しみながら暮らしております。この一年は市大に行く機会が増え、OB

として市大コンサートバンドの定期演奏会にも出演させて頂き、ますます母校のお世話になっております。

仕事では、次世代の電子デバイス用途の素材の提案から初期検討に携わっております。すなわち、論文や学会から最新の研究を調査し、実用化の可能性を試す業務であり、自ら化学合成した素材を用いてデバイスのプロトタイプを作成し、そのデバイス評価までを担当しております。これまでに有機EL素子や有機トランジスタ素子を作成したこともあり、1 nm単位という分子スケールでの膜厚制御なども経験しました。最近では、DNAなどを用いたバイオテクノロジーも組み合わせた検討を進めており、在学時の研究

対象であった高分子合成技術から、遥かに広い技術の海でもがいております。その状況で私が研究を前に進めるために重要なことと思う一つは、その道の専門家とのディスカッションであり、在学時における国内外の研究室や国際学会での議論の経験がなければ、もっと苦勞しているかと思えます。

市大と府大の統合が進められていますが、単なる経費削減や効率化だけでなく、双方の学風の違いを生かし、多種多様な研究者のディスカッションによって、システマチックな技術の創発と、それに参画・推進できる人材の育成の場となることを願っております。

応化・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・(株)フジクラ

住吉 康彰



私は2011年に化学生物系専攻前期博士課程を修了後、株式会社フジクラに入社して、電子機器向けのプリントブルエレクトロニクス関連の開発に携わっています。

配属直後から開発担当として我々の製品で主要となる印刷技術を革新させるための新規印刷装置の立ち上げ、新規要素技術の開発、既存製品の低コスト化検討など幅広い業務に関わりました。また、2015-2016の2年は技術部に所属し、技術営業および設計担当として客先への技術提案から見積、試作、量産立ち上げまでを経験し、営業、製造、開発と連携して新製品を10機種立ち上げることができました。それらが搭載された電子機器が業界で注目を浴び、家電量販店でも陳列されているのを見たときは、大きな充実感を覚えました。入社後の業務を振り返ると、必要となる

専門分野は化学以外の電気、物理系など、学生時代の専攻と異なることがほとんどでしたが、学生時代に学んだ基礎と、研究を通して身につけた課題に取り組む姿勢を活かして日々、業務に取り組んでいます。

2014年からは社内リクルータに任命され、大学の研究室を訪問しています。その際に学生時代にお世話になった先生とお会いして、活力をいただいています。また、研究室の同期とは、就職先が私だけ関東と離れていますが、長期連休の度に会い、一緒に全国各地に旅行へ行くなどと大切な友人として卒業後も付き合い続けています。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念して近況報告とさせていただきます。

応化・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・住友ゴム工業(株)

萩原 貴志



私は2011年に化学生物系専攻前期博士課程を修了後、住友ゴム工業株式会社に入社しました。以降、新車装着向け乗用車用タイヤの開発に携わっており、6年の歳月が経ちました。新車装着用タイヤは、数万点におよぶ新型車両部品の一つであり、直接のお客様は国内および海外の自動車メーカー様です。タイヤには、転がり抵抗、摩耗性能、乗心地性能など様々な要求性能が提示されますが、全性能をクリアし、お客様に満足頂くことが私の使命です。タイヤは高圧の空気が封入された容器であり、自動車部品の中で唯一地面に接する部品でもある為、安全性の確保が何よりも大切です。実際にお客様が安心して車に乗れるタイヤをお届けすることが、私の信念です。昨年より、海外自動車メーカー向けのタイヤ開発に携わり、またそのタイヤ生産拠点も海外である為、毎日が英語づけです。英語と真剣に

向き合うことが研究室時代以来でしたので、当然全くという程英語が話せず、初めは一つのメールを打つにも20分以上費やしていました。毎回投げ出したくなる気持ちでしたが、最近では、つたない英語でも臆せず直接会話ができる(勇気が持てる)までになりました。

また私事ですが、今年入籍をし、10月より新生活をスタートさせております。修了後、実家に帰っていたもので、実に7年ぶりの家事に挑戦中です。洗い物、掃除には自信がありますが、料理が全くできません。共働きですので、これをいい機会にから料理の勉強をしたいです。公私ともに慣れないことの連続ですが、引き続き新しいことに日々挑戦していきたいと考えております。

末筆になりましたが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

建築学科（旧建築・旧環都一部）

建築学科の近況



工学研究科教授・建築学科主任教授
横山 俊祐

2020年東京オリンピックを控え、建築業界も活況を呈しているなか、卒業生の皆様には、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

進路では、3月の学部卒業生は、入学時には36名でしたが、卒業時には過年度生2名を含めて25名へと激減しました。建築学科らしいとはいえ、「歩留まりの悪さ」に、変容する学生の学問観と指導する側の教育観との間の齟齬を感じます。OBの皆様のご尽力による職業ガイダンスと業界の活況を追い風に、14名が全て建築業界に就職、11名が大学院進学となりました。また、指定校推薦入試制度の第一期生が日本建築学会優秀卒業論文賞やコンペ入選などの優れた業績を上げて大学院を修了し、一サイクルが完結しました。関西弁を話さない多様な文化・風土を基盤とする学生を西日本各地から広く集めようとの意図で始めた本制度は、優秀な学生をも集めているようです。

1年間の出来事では、日本建築学会の授賞が続きました。倉方准教授は、「大阪市『生きた建築ミュージアム事業』による建築文化の振興」により、日本建築学会賞（業績）を、修士1年の川分芳子さんは、小林講師の指導による「中高層オフィスビルの自然換気量算定用風圧係数の入力方法とその影響」で、優秀卒業論文賞を受賞しました。昨年の熊本地震の復興支援の一環として、宮本教授は御船町で2つの「みんなの家」の設計と学生・地域との協働による施工を行い、徳尾野准教授・横山は、学生とともに居宅介護施設の土壁塗りを行いました。また、工学部A棟エントランス脇のトイレの全面改修設計も学生が行いました。是非、お試してください。

今後も、研究だけでなく、社会に向けて様々な活動を発信・展開して参りたいと思います。ご支援の程、宜しく願います。

「近況報告」

建築・昭和48年卒

福島 眞一



建築学科には、“建築会”と言う学科の同窓会があります。私は昨年度に、建築会会長に就任いたしました。

“建築会”は、都島工業専門学校の卒業生を含め、卒業生・在校生・教職員・教職員OBがメンバーで2000人を超える人数で、構成されています。また、東京には東京支部があり、東京在住の卒業生・教職員OBが年に1回集まっています。

“建築会”で行っている主な事業は、毎年7月末に総会と見学会を開催する事と、会報誌の発行です。今年の総会・見学会は、富田林市で開催し、寺内町を見て回りました。白壁・板塀・木格子・虫籠窓等が残っている江戸時代のお寺と商家の町並みをボランティアガイドの案内で見学しました。その後、近くのお寿司屋さんで懇親しました。80才を超える方から30才代の方まで31名の参加があり、和気藹々と良い雰囲気が集まる事ができました。会報誌は、“建築会だより”で、6月にNo.17が発行されました。卒業生の活躍している消息と、大学の各研究室だより等を載せています。

その他、若い卒業生が在校生に実際の仕事では、どんな環境で何をやっているかをレクチャーする“就職ガイダンス”の開催や、卒業式で優秀者への賞品のプレゼント、入学式

で新入生への三角スケールのプレゼント等を行っています。

卒業生には、各界各方面で活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。“建築会”の事務局では、卒業生同士の懇親だけではなく、卒業生が大学・在校生に何ができるか、在校生が卒業するに当たって力になれないか、また工学部同窓会とも連携をとりながら、今後も皆さんのお役にたつよう“建築会”を運営しています。建築学科の卒業生の皆さんは、ぜひとも総会・懇親会に誘い合って出席してください。



建築会

都市学科（旧土木・旧都基・旧環都）

都市学科の近況



工学研究科教授・都市学科主任教授
西岡 真稔

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より都市学科・都市系専攻に対して様々な機会にご支援を頂いておりますこと感謝申し上げます。

平成28年度は44名の学生が3月に卒業しました。その内10名は就職、33名は大学院（本学大学院31名）へ進学しました。また都市系専攻（都市学講座）の前期博士課程として33名が修了し、30名は就職、2名は後期博士課程に進学しました。これら社会人となった学生達に対して、都市づくりを担う同志として卒業生の皆様から温かく迎え入れて頂くようお願いいたします。

次に平成29年の教員の近況について報告します。日野泰雄教授が3月をもって定年退職されるとともに、名誉教授の称号を授与されました。日野教授は、平成24～27年度まで4年にわたり工学研究科長の重責を担われるなど、本学へ多大な貢献をされました。

佐久間康富講師は本学を退職され、4月より和歌山大学へ准教授として赴任されました。また、4月より環境都市計画分野の嘉名光市准教授が、教授に昇任されました。嘉名教授は日本都市計画学会において石川賞（水都大阪のまちづくり）を受賞（共同受賞、平成28年5月）され、都市づくりの実践的取組が高く評価されています。10月には環境都市計画分野に蕭閔偉講師、応用構造工学分野に森山仁志特任助教（本学都市学科2期生）のお二人の20代若手教員をお迎えすることができました。

大震災によるインパクトが覚めやらぬ中、地球温暖化に起因するともいわれる台風・集中豪雨による土砂災害や洪水なども頻発しており、都市学の果たす役割は今後も重要度を増していくでしょう。皆様の一層のご活躍を祈念して近況報告を終わらせて頂きます。

「土木屋の使命と誇りをとおして」

土木・昭和46年卒・鹿島道路(株)

住吉 正信



私は、1948年生まれの団塊の世代で、1971年に土木工学科（当時）を卒業し、インフラ関連などの土木構造物を直接自分の手で建設したいとの初心でゼネコン鹿島に入社しました。入社後は、主に土木部門の設計、施工、企画、管理、グループ会社の経営などに46年間従事し、今、晩節を迎えています。

まず、鹿島での市大卒業生の活躍状況ですが、都市系を中心に約90人が海外を含む全国各地で活躍しています。「桜花会」と名付けた卒業生の懇親会を大阪と東京とで年数回づつ開催し、親睦と情報交換とを図っています。

鹿島における市大卒業生相互のコミュニケーションは非常に良く図られていると自負しています。

次に、これまでの経験を踏まえた私自身の所感、想いですが、私はゼネコンの土木屋であり、自分の使命と仕事の目的は、土木構造物をより安全に、良く、早く、作り上げ、お客様に提供し、ご満足をいただくことであると考えて、仕事に取り組んできました。

しかし、その土木構造物を造ることが、国、社会、経済、国民にどう具体的な貢献をするのか、という見識に欠けていた気がしています。一方で、地震、豪雨など最近の異常気象から国土を守る強靱な国造りの必要性、老朽化インフラの健全な維持更新などインフラの必要性・重要性は増すばかりです。



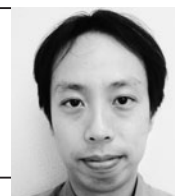
「桜花会」(10月3日東京)

改めて、国土造りの一端を担う仕事の大切さを認識した次第です。勿論、こう言った国土造り、健全な国土の維持は都市系だけでなく工学部全体が担っている大切な役割であり使命です。その大切な役割を担っていかれる卒業生の

皆さんが、気概と誇りを持って仕事に取り組み、もって社会に貢献していかれることを念願しています。併せて、これからも益々元気にご活躍されることを心から祈念する次第です。

土木・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・南海電気鉄道(株)

盛岡 学



卒業生の皆様におかれましては益々のご健勝のことと慶び申し上げます。私は、平成20年3月に都市系専攻前期博士課程（地盤工学研究室）を卒業し、同年4月に南海電気鉄道株式会社に入社しました。

入社後は、当社の線路・土木構造物をメンテナンスする保線の現業部門に約2年、他社も含めた土木構造物の検査・施工監理業務を専門とするグループ会社に約2年、当社保線の本社部門に約2年勤務しました。そこでは、鉄道土木特有のミリ単位の精度が求められる維持管理・施工監理等を経験してきました。その後に、国の官民人事交流制度を用いて国土交通省鉄道局で約2年国家公務員として勤務しました。そこでは、初めての東京生活を送りながら、全国の鉄道会社を相手とした鉄道行政に携わり、その中でも主にリニア中央新幹線を担当するなど、一鉄道会社では経験

できないスケールの大きな仕事を経験することができました。その後に当社に戻って、現在は、南海本線石津川駅・羽衣駅間の堺市内連続立体交差事業における鉄道工事を担当しています。これまでに学んだ土木・保線・鉄道行政の知識を活かしながら、安全かつ早期に高架化工事を進められるよう、工事の計画・設計・施工監理および行政協議等を行っています。

あと、私生活では昨年10月に結婚しました。現在も新しいことばかりで日々ばたばたしておりますが、家族と過ごす幸せを感じながら充実した生活を送ることができています。

最後になりましたが、ご無沙汰しております皆様には、またお会いして学生時代の思い出や近況のお話ができれば幸いです。

環都・平成17年卒・大栄環境(株)

西野 達矢



同窓生の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成17年3月に都市リサイクル工学研究室を卒業した西野です。学生時代「滝」の魅力にとりつかれ、目指した日本の滝100選制覇が今年ようやく30カ所に到達しました。これからも少しずつ全国の滝を巡りたいと思っています。

卒業後、私は大栄環境(株)という産業廃棄物処理会社に就職しました。産業廃棄物処理会社といっても「産業廃棄物処理や再資源化」だけではなく、「一般廃棄物処理」、廃棄物発電等による「エネルギー供給」、自治体ごみ焼却施設の「運転・維持管理」など多岐に渡ります。ゲリラ豪雨等の被災地で発生する災害廃棄物の処理も重要な役割です。被災地の復興には、直後の混乱を回避し、災害廃棄物撤去をスムーズに実行する必要がある、そのために平時の備えや実行性のある計画づくりが重要です。

私は今年度から新設された企画部門に所属して、ある市町村の災害廃棄物処理計画を策定しています。被災後すぐ復興に向かえるように、「絵にかいた餅」にならず、より実行性のある計画を策定することが私のミッションです。現在は災害廃棄物処理を行う立場から見た仮置場選定基準や市町村の地域特性等を踏まえて市町村担当者と計画策定について協議を続けています。この計画が陽の目を見ないように祈りつつ、被災地の復興に貢献できるという思いから充実した日々を過ごしています。

最近は同期の集まりに参加できていなかったのが近況報告させて頂ける事に感謝いたします。これを機会にまた、同期の皆と連絡が取れるのを期待したいと思います。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈りし、近況報告とさせていただきます。

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名		学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名			
機械物理系	機械工学科	環境熱工学	西村 伸也	電気情報工学科	電気情報工学科	光電子工学	宮崎 大介	建築学科	建築学科	建築構造	谷口 与史也 吉中 進 鈴木 裕介				
		熱プロセス工学	伊與田 浩志			電磁デバイス工学	辻本 浩章			建築防災	谷口 徹郎 ガヴァンスキ江梨				
		流体工学	加藤 健司 脇本 辰郎			スマートエネルギー	仕幸 栄治			建築材料	木内 龍彦				
		機械力学	川合 忠雄 今津 篤志			制御工学	蔡 凱			建築環境	梅宮 典子 小林 知広				
		生態計測工学	佐伯 壮一			情報システム工学	高橋 秀也 吉本 佳世			建築デザイン	宮本 佳明				
		材料数理工学	山崎 友裕 大島 信生			情報処理工学	林 和則 中島 重義			建築史	倉方 俊輔				
		動力システム工学	瀧山 武			知識情報処理工学	田窪 明仁 上野 敦志			建築計画	横山 俊祐 徳尾野 徹				
		ロボット工学	高田 洋吾			情報ネットワーク工学	岡 育生			建築構法	藤本 益美				
		生産加工工学	川上 洋司			情報通信工学	原 晋介 杉山 久佳 辻岡 哲夫			コミュニティデザイン	嘉名 光市 蕭 閔偉				
		材料物性工学	横川 善之 岸田 逸平			マルチメディア工学	阿多 信吾			複合構造	鬼頭 宏明				
	材料知能工学	逢坂 勝彦 中谷 隼人	光物性工学		中山 正昭	コンクリート構造	角掛 久雄								
	材料機能工学	兼子 佳久 内田 真	フォトニック工学		竹内 日出男	橋梁工学・鋼構造	山口 隆司 森山 仁志								
	共工学通部	応用数学	松岡 千博 瀧澤 重志		波動物理工学	菜嶋 茂喜	地盤環境工学		大島 昭彦						
		機械工作室	吉岡 真弥		ナノマテリアル工学	金 大貴	地盤防災工学		山田 卓						
化学生物系	化学バイオ工学科	無期工業化学	山田 裕介 有吉 欽吾 田部 博康	電子・物理工学科	電子・物理工学科	工業物理化学	辻 幸一 米谷 紀嗣	都市系	都市系	河海工学	重松 孝昌				
			有機工業化学			畠中 康夫 南 達哉	水理学			中條 壮大					
			高分子化学			堀邊 英夫 佐藤 絵理子 西山 聖	熱環境			西岡 真稔					
		材料化学	小島 誠也 北川 大地		数理工学	寺井 章 杉田 歩	熱エネルギー設備			鍋島 美奈子					
			生体機能工学		長崎 健 東 秀紀	物性制御工学	中山 弘 福田 常男			水圏生態工学	相馬 明郎				
		生物分子工学	北村 昌也 中西 猛		応用分光計測学	小林 中	水圏環境工学			遠藤 徹					
			細胞工学		東 雅之 尾島 由紘	検出器物理工学	武智 誠次			水処理工学	貫上 佳則				
		創薬生命工学	立花 太郎		パワーエレクトロニクス	重川 直輝 梁 剣波	廃棄物リサイクル			水谷 聡					
		生体材料工学	立花 亮		材料計測工学	白藤 立 村治 雅文 田中 健司	環境都市計画			※嘉名 光市 ※蕭 閔偉					
		生物化学工学	五十嵐 幸一			交通計画	内田 敬								
		複合先端研究機構			吉田 朋子							交通環境	吉田 長裕	※建築学科兼任	
												テニユアトラック連携教員		遠藤 智司	

行事報告

平成29年度「学生見学会」

平成29年2月16日（木）7回目となる本年度の学生見学会は、ダイハツ工業株式会社 本社・池田工場を見学先として実施されました。参加者が大学工学部の学生ということで、同社管理センター 人材開発室 採用・教育グループのご厚意により、一般的な見学コースに加え、特別に、同社「教育センター」の見学をプログラムに加えていただくことができました。

ダイハツ史料展示館「Humobility World」では、「くらしを考える、軽を考える」をテーマに、広く、明るい空間に、同社の軽自動車の開発の歴史が時代ごとに開発当時の庶民のくらしの様子を理解できるセットとともに、実車および特徴的なエンジンのカットモデルなどが分かりやすく展示されていました。案内役の女性スタッフの説明もわか

りやすく、学生諸君も楽しそうに見学をしていましたが、展示内容の時代背景(昭和20～30年代)を知る筆者にはむしろ、幼いころの生活の記憶が蘇りなつかしさが際立ちました。

完成車の組み立てラインでは、車体が連続してコンベアで流れる間に、ラインに沿って配置された多数の作業ステーションで、それぞれ担当の作業者が部品の取り付けや艤装作業を行います。各ステーションのタスク時間は13秒とのこと。すなわち、13秒ごとに完成車が生み出されます。しかも、車種や色、オプション内容が異なる車体がランダムで流れ、指示データにしたがって作業者は正確に担当の組み立て作業を行います。日本製の自動車の高品質を支える仕組みの一端を垣間見ることができました。

「教育センター」は、新入社員や海外からの研修生に対して自動車の構造や機能を具体的に理解させる施設で、車体、ブレーキ、サスペンション、車輪、ステアリング、エンジン、トランスミッション、ディファレンシャル、ドア・ウインドレギュレータなど、自動車を構成する構造部品、機能部品のすべてを実際の可動モデルを使いながら理解することができます。案内・説明役は、工学部OBの本多匠様にご担当いただきました。

今回も、自動車の開発の歴史、組み立て現場の実際、自動車の構造・機能の理解、先輩からのアドバイスと、盛沢山な内容の見学会であり、学生諸君にとって、とても有意義な一日であったと思われます。

懇親会は、同窓会役員と参加学生諸君との間で、打ち解けた雰囲気の中でさまざまな話題に会話の花が咲きました。

S52機械科卒 吉田 稔（副会長）



第4回工学部新任・若手教授による講演会

「銀杏祭」に合わせて行われる「ホームカミングデー」の特別企画、工学部・工学部同窓会共催の「第4回工学部新任・若手教授による講演会～私の研究が目指すもの～」が11月3日の15時から16時20分まで工学部G棟1階中講義室で開催された。参加者は同窓会員を主に約40名。

講演会は吉田稔行事担当副会長（機械・昭和52年卒）の司会で進行した。

講演に先立ち、工学研究科副研究科長代行の重松孝昌先生より、学窓を巣立った卒業生と密にコンタクトをしている同窓会に対し謝意が述べられた。

続いて黒山泰弘会長（土木・昭和50年卒）より、都市再生の分野に携わってきており勉強させていただきたいとの挨拶がなされた。

講演は工学研究科教授で都市計画、都市再生デザイン、景観論、エリアマネジメントがご専門の嘉名光市先生、題目は『新たな都市計画の潮流』。

成熟型社会の到来を迎え、縮小する市街地への対処、ストックを活用した都市再生、地域との協働によるまちづくりへの対応などが求められているとして、大きく分けて3つの実践例が紹介された。

一つ目はエリアマネジメントの活動を支えるBID（Business Improvement District）。地域の不動産所有者や事業者から負担金を徴収し、これを主たる原資として、地域の維持・管理・プロモーションに関し、行政のサービスに上乗せする付加的サービスを行う制度のこと。BIDの導入例として、ニューヨーク125番街（通称ハーレム地区）のクオリティアップ、タイムズスクエアの観光地化、ブライアント・パークの浄化・再生、テキサス州サン・アントニオの水辺のまちづくりが紹介されたのち、2014年に日本で初めて制定された「大阪版BID条例」とその「グランフロント大阪」横の「梅北広場」への適用例も紹介された。

二つ目は公共空間の活用・再生への取り組み。『水都大阪』の「中の島オープンテラス」や「北浜テラス」。公園の浄化・再生事業「てんしば」（天王寺公園エントランスエリア）。御堂筋の緩速車道を歩行者空間や自転車道に変える歩行者空間化など、エピソードを交えて紹介された。御堂筋の淀屋橋・本町間を、1階はカフェやギャラリーで賑わい

スペースとする高層ビル群で再生する計画についても紹介された。

三つ目は「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2017」。『生きた建築』とは『文化財』とは異なり、「ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証しであり、様々な形で変化・発展しながら今も生き生きとその魅力を物語る建築物等」という新しい概念。その大阪セクション50件は梅田スカイビル、大阪ガスビル、船場センタービルや味園ユニバースビル、食道園宗右衛門町本店ビルなど。フェスティバル当日には各建物の内部も見学できると紹介された。

講演終了後も、大阪の歴史や文化、大阪商人の心意気などについて活発な意見交換がなされた。

なお、講演会の冒頭、重松先生より10月23日に工学研究科長 佐藤嘉洋先生が逝去されたこと伝えられ、参加者全員で黙祷を捧げた。佐藤先生は秋田県横手市のご出身。1999年4月に東北大学より機械工学科に助教授として着任され、2002年4月より教授。昨年の第3回講演会では研究科長として開会のご挨拶をいただいた。今年7月3日の工学部教授会と工学部同窓会の役員懇談会でお会いしたのが最後でした。ご誠実で心優しい先生でした。心よりご冥福をお祈りいたします。

東 恒雄（機械・昭和41年卒・理事）



ご存知ですか？

大阪市立大学では、各分野で活躍している卒業生や教員等の専門家が講師となり、一般市民を対象にした専門家講座を毎年1月～3月に開講しています。分野は法律、会計、証券、技術、文化・歴史、理学、スポーツなど多岐にわたっています。会場は大阪駅前第2ビル6階にある大阪市立大学文化交流センターです。興味がお有りの方は、インターネットで [大阪市立大学オープンレクチャーズ](#) で検索してみてください。

事務局便り

評議員会報告

会 議 名	第28回評議員会
日 時	平成29年 2月10日（金）午後5時30分～6時20分
場 所	ヴィアーレ大阪 5階 アレグロ
議案項目	①2016年度（第22期 2年度）事業報告 ②2016年度収支決算及び会計監査報告 ③2017年度（第23期 1年度）理事会役員案

- ④2017年度事業計画案
⑤2017年度予算案

議案書抜粋

①第22期第2年度（2016年1月～12月）収支決算書
（イ）経常費収支決算表（円）

収 入		支 出	
終身会費	5,520,000	会議費	172,527
貯金利息	767	行事費	389,430
経常寄付	249,000	交流・懇親行事費	149,257
		会報発行費	1,575,440
前期より繰越金	4,262,47	会員データ管理費	183,600
		協賛費	222,427
		渉外費	2,818
		事務局費	2,461,100
		通信費	94,312
		事務費	212,474
		備品費	27,000
		会費徴収費	21,290
		次期への繰越金	4,520,339
合 計	10,032,014	合 計	10,032,014

（ロ）貸借対照表（2016年12月末）（円）

借 方		貸 方	
振替口座	1,558,834	2015年度 累計剰余金	4,262,247
普通預金	3,641,095	2016年度 剰 余 金	258,092
定期預金	35,555,497	特別基金	36,235,087
合 計	40,755,426	合 計	40,755,426

②第23期第1年度（2017年度1月～12月）理事会役員

会 長：黒山泰弘（土50）
副会長：吉田 稔（機52）、森田至彦（電51）、
神門 登（化45）、真志義昭（建41）、
斎藤壽士（物44）
会 計：東 恒雄（機41）
理 事：人見宗男（機31）、宮本万功（機43）、
笠上文男（機50）、瀧山 武（機59）、
栗政幸一（電31）、建部 渉（電35）、
行藤三男（電36）、南 繁行（電45）、
木村雅之（電51）、前谷治男（電51）、
村治雅文（電62）、山田文一郎（化修40）、
三浦洋三（化42）、西口克彦（化43）、
安田 裕（化48）、大嶋 寛（化49）、
芝野弘之（土44）、浅井真一（土48）、
日野泰雄（土50）、廣瀬彰則（土54）、
大島昭彦（土55）、坂 壽二（建42）、
中川長継（建48）、太田隆司（建55）、
小西浩夫（建56）、谷口徹郎（建59）、
田守芳勝（物38）、柳川重昌（物44）、
山本 孝（物45）、大前秀治（物56）
監 事：高桑久茂（電46）、志野太一（物40）

③第23期第1年度（2017年1月～12月）事業計画

- ①会報第33号を12月中旬に発行・配布。
②工学部・全市大行事及び事業への協力。
③会員相互の親睦交流の促進。

- ④特別基金の運用と有効活用。
⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。
⑥準会員（在学生）の工場見学の実施。
⑦工学部・同窓会共催：新任・若手教授による講演会の実施。

④第23期第1年度経常費予算（円）

収 入		支 出	
終身会費	5,520,000	会議費	160,000
貯金利息	1,000	行事費	120,000
経常寄付	249,000	交流・懇親行事費	120,000
特別基金から繰入	1,588,125	広報費	1,750,000
前期繰越	4,520,339	会員データ管理費	280,000
		協賛費	300,000
		渉外費	20,000
		事務局費	2,300,000
		通信費	100,000
		事務費	120,000
		備品費	400,000
		会費徴収費	80,000
		予備費	200,000
		次期への繰越金	5,928,464
合 計	11,878,464	合 計	11,878,464

新評議員紹介

機械工学科：高津良平、塚谷康平
電子・物理工学科：田村慶太、山下雄大
電気情報工学科：小倉裕史、木本雅也
化学バイオ工学科：青木優武、澤岬佳菜代
建築学科：中嶋純一、島 広一
都市学科：末吉拳一、田邊礼佳

第29回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の**第29回評議員会**を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、ご欠席の場合の**委任状**（後日送付）を、
2018年2月16日（金）までに必ずご発送ください。

記

日 時：2018年（平成30年）2月24日（土）
午後2時00分～3時10分

会 場：大阪市立大学学術情報総合センター 1F 文化交流室

理事会報告

第22期第9回理事会		
日 時	平成28年12月14日午後6時～8時	
場 所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室	
参加理事数	16名+事務局	
主な議題	①会長報告 ②奨学金決定審査委員会について ③学生工場見学について ④同窓会報の発行について ⑤第27回評議員会の開催について	

第22期第10回理事会		
日 時	平成29年1月26日午後6時～8時	
場 所	大阪市立大学文化交流センター大セミナー室	
参加理事数	19名+事務局	
主な議題	①会長報告 ②評議員会議案について ③奨学金の返済方法について	

第23期第1回理事会		
日 時	平成29年4月19日午後6時～8時	
場 所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室	
参加理事数	22名+事務局	
主な議題	①会長報告 ②今期の理事会について ③理事の役割分担について ④全学同窓会報の冊子化について	

第23期第2回理事会		
日 時	平成28年7月19日午後6時～8時	
場 所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室	
参加理事数	13名+事務局	
主な議題	①会長報告 ②「博士課程教育リーディングプログラム」への支援要請について ③工学部同窓会談話室・セミナー室の改修について ④2018年度同窓会奨学金募集について ⑤文化交流センター分担金の承認について	

第23期第3回理事会		
日 時	平成28年9月28日午後6時～8時	
場 所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室	
参加理事数	16名+事務局	
主な議題	①会長報告 ②受験前内定型奨学金の案内報告 ③工学部同窓会報第33号の発行について ④工場見学会について	

平成29年度 工学部同窓会奨学生採用の報告

「工学部同窓会奨学金」は、工学部同窓会設立50周年記念事業として創設されました。設立50周年記念募金から850万円、同窓会の保有資産から3,000万円の計3,850万円の範囲内で運営することにして、平成22年度入学希望者から奨学生募集を開始しました。

本奨学金は、経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して、入学試験の出願時期より1ヶ月以上も前に奨学生の募集と内定を行い、入試に合格した場合には入学手続き時より奨学金を貸与するのが特徴です。入学手続き時に50万円、それ以降2、3、4年進級時にそれぞれ25万円の計125万円を無利子で貸与します。

平成27年までは定員12名で募集していましたが、平成28年度入学生から、一般入試受験生用（定員10名）と、推薦入試（指定校制推薦を含む）受験生用（定員1名）に分けて奨学生を募集しています。これまでの奨学金貸与者は、平成24年度から26年度までは各年度1名、27年度2名、28年度は一般入試受験者1名、推薦入試受験者1名でした。

平成29年度は一般入試10名、推薦入試1名の応募がありましたが、最終的には入試に合格した一般入試2名、推薦入試1名の入学生に対し、入学手続き時に50万円を貸与しました。

奨学生募集案内は、工学部同窓会のホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

奨学金担当理事 東 恒雄（機械・昭和41年卒）



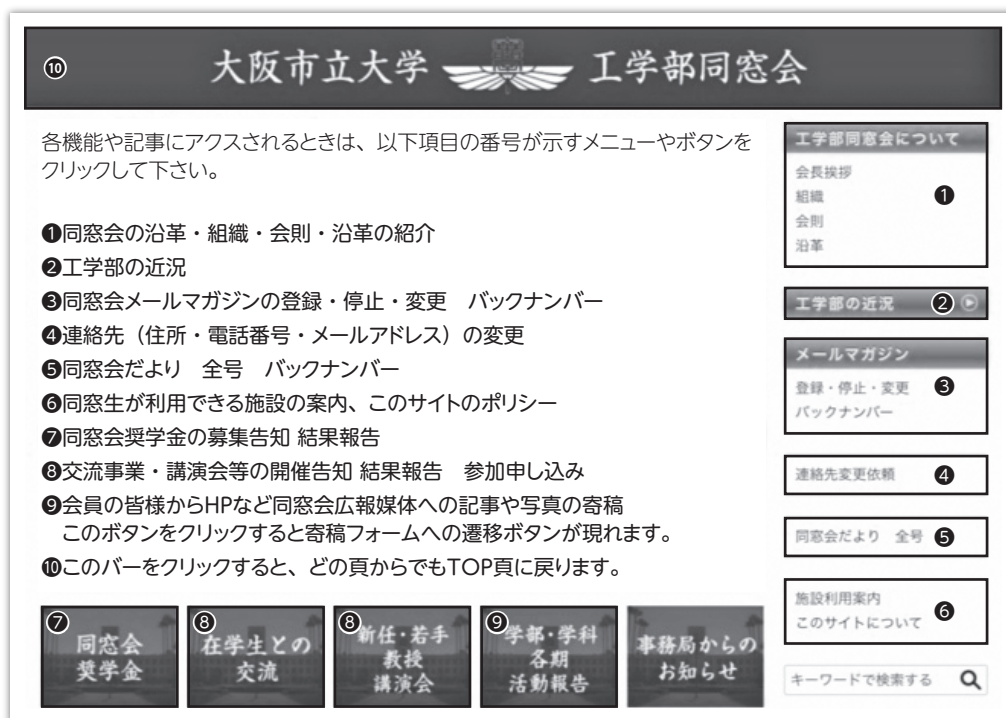
同窓会ホームページの使い方

工学部同窓会副会長 広報委員長 森田 至彦

http://kougakubu.osaka-cu.net

TOP頁へのアクセスは、ブラウザのアドレス入力欄に上記URLを直接入力するか、Google等の検索サイトの検索欄に「**大阪市立大学 工学部同窓会**」と入力してアクセスして下さい。このホームページは、スマホからの使用、読者からの寄稿等の双方向の情報交換、セキュリティの確保などが可能となる設計にしております、会員の皆さまが、工学部同窓会の活動を網羅的に把握できるようになっています。

TOP頁の各メニューや釦の使い方は下の図を参考にして下さい。



会員の皆様には、是非、同窓会ホームページをブックマークして頂き、連絡先変更、メールマガジンの登録、イベントの参加、活動記録の寄稿の際にご利用頂けたらと考えております。今後もより見やすく便利なサイトとなるよう運営に努めてまいりますので宜しくお願い致します。

投稿方法・事務局への連絡先

近況報告に投稿を希望される方は、工学部同窓会事務局にお問い合わせください。

☎ 06-6607-8373

✉ dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp

編集後記

同窓会だより第33号をお届けします。

本誌発行に当たり、お忙しい中にもかかわらず寄稿頂きました、大学の先生方や卒業生の皆様に感謝いたします。お陰で充実した内容の「同窓会だより」に仕上がりました。

一方、我々にも大いに関心のある市立大学と府立大学の統合については、先行きが未だ不透明で今回の「同窓会だより」で報告するには至っておりません。府と市でまとめられ、今年9月の議会で提出された、統合の計画案では、2019年4月に両大学法人を一本化し「1法人2大学」体制に、22年春には大学自体を統合し「1法人1大学」に移行することになっています。

計画案が実行に移され、大学や工学部の新体制が明確になった時点で、環境の変化に対応した同窓会の有り様や、独自の活動である「奨学金制度」・「企業見学会」・「ホームカミングデーの講演会」・「工学部同窓会の集い」等について再検討する必要があります。同窓会では卒業生の皆様に新しい正確な情報をお伝えするために、工学部同窓会のホームページに掲載していきます。これからも皆様のご支援・ご協力をお願いします。（斉藤 壽士）

編集委員（〇印：編集長）

〇斉藤 壽士（応物：昭和44年卒）森田 至彦（電気：昭和51年卒）人見 宗男（機械：昭和31年卒）瀧山 武（機械：昭和59年卒）木村 雅之（電気：昭和51年卒）村治 雅文（電気：昭和62年卒）山田 文一郎（応化：昭和40年修）大島 昭彦（土木：昭和55年卒）

“工学部同窓会の集い”
—第12回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”は第12回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。
講演会では、次の方をお願いいたしました。

また、懇親会は旧教養地区北食堂で開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております。

記

日 時 2018年2月24日（土曜日）
午後3時20分～午後6時30分

講演会 時 間：午後3時20分～午後4時20分
会 場：大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

仮題「大阪の橋のご紹介」

大阪市立大学工学部同窓会 会長 黒山 泰弘 氏

懇親会 時 間：午後4時30分～午後6時30分
会 場：旧教養北食堂
会 費：3,000円（当日、会場にて徴収）

申込方法

- ① 連絡事項：①ご氏名 ②学科(専攻)名 ③ご卒業(修了)年
④住所(連絡先) ⑤講演会の出欠 ⑥懇親会の出欠
- ② 方 法：ハガキ、FAXまたはe-mail、ホームページ
- ③ 期 日：2018年2月16日（金曜日）

申 込 先

大阪市立大学工学部同窓会 事務局
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
FAX：06-6605-2769
e-mail：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp
HP：http://kougakubu.osaka-cu.net

